

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成20年10月23日(2008.10.23)

【公表番号】特表2002-519072(P2002-519072A)

【公表日】平成14年7月2日(2002.7.2)

【出願番号】特願2000-558236(P2000-558236)

【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/68 A

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/00 A

C 1 2 N 15/00 Z N A A

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月4日(2008.9.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 植物の害虫\_\_蔓延を軽減する方法であって、

a) 該害虫から、その生存、生長、増殖に臨界的な D N A 配列を同定し、

b) 工程 a) からの配列またはそのフラグメントを適当なベクター中、プロモーター(類)に対して、該プロモーター(類)に適当な転写因子が結合すると該プロモーター(類)が該 D N A 配列の R N A または d s R N A への転写を開始できるような配向にクローニングし、

c) 該ベクターを植物に導入することを特徴とする方法。

【請求項 2】 該害虫が植物を餌にする害虫である請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】 該害虫が線虫類である請求項 1 または 2 記載の方法。

【請求項 4】 該線虫類がチレンクルス・エスピー(Tylenchulus ssp.)、ロドホルス・エスピー(Radopholus ssp.)、ラジナフェレンクス・エスピー(Rhadinaphelenchus ssp.)、ヘテロデラ・エスピー(Heterodera ssp.)、ロチレンクルス・エスピー(Rotylenchulus ssp.)、プラチレンクルス・エスピー(Pratylenchus ssp.)、ベロノライムス・エスピー(Belonolaimus ssp.)、カンジャンス・エスピー(Canjanus ssp.)、メロイドジン・エスピー(Meloidogyne ssp.)、グロボデラ・エスピー(Globodera ssp.)、ナコブス・エスピー(Nacobbus ssp.)、ジチレンクス・エスピー(Ditylenchus ssp.)、アフエレンコイデス・エスピー(Aphelenchoides ssp.)、ヒルシュメニエラ・エスピー(Hirschmenniella ssp.)、アングナ・エスピー(Anguina ssp.)、ホプロライムス・エスピー(Hoplolaimus ssp.)、ヘリオチレンクス・エスピー(Heliotylenchus ssp.)、クリコネメラ・エスピー(Criconemella ssp.)、キシフィネマ・エスピー(Xiphinema

ssp.)、ロンギドルス・エスピー (Longidorus ssp.)、トリコドルス・エスピー (Trichodorus ssp.)、パラトリコドルス・エスピー (Paratrachodorus ssp.)、アフエレンチス・エスピー (Aphelenchus ssp.)のいずれかである請求項3記載の方法。

【請求項5】 該害虫が昆虫である請求項1または2記載の方法。

【請求項6】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように2つのプロモーター間に該DNA配列が提供される請求項1～5のいずれか1項記載の方法。

【請求項7】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように該プロモーターに対してセンスおよびアンチセンス配向で該DNA配列が提供される請求項1～6のいずれか1項記載の方法。

【請求項8】 該プロモーターが組織特異的プロモーターである請求項1～7のいずれか1項記載の方法。

【請求項9】 該プロモーターが根特異的プロモーターである請求項8記載の方法。

【請求項10】 植物の寄生虫蔓延を軽減するための請求項1～9のいずれか1項記載の方法。

【請求項11】 植物害虫の生存、生長、増殖に臨界的な植物害虫由来のDNA配列を含む植物であって、該DNA配列またはそのフラグメントが適当なベクター中、プロモーター(類)に対して、該プロモーター(類)に適当な転写因子が結合すると該プロモーター(類)が該DNA配列のRNAまたはdsRNAへの転写を開始できるような配向にクローニングされているところの、植物。

【請求項12】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように2つのプロモーター間に該DNA配列が提供されている請求項11記載の植物。

【請求項13】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように該プロモーターに対してセンスおよびアンチセンス配向で該DNA配列が提供されている請求項11または12記載の植物。

【請求項14】 該プロモーターが組織特異的プロモーターである請求項11～13のいずれか1項記載の植物。

【請求項15】 該プロモーターが根特異的プロモーターである請求項14記載の植物。

【請求項16】 植物害虫の生存、生長、増殖に臨界的な植物害虫由来のDNA配列の植物の害虫蔓延を軽減するための使用であって、該DNA配列またはそのフラグメントが適当なベクター中、プロモーター(類)に対して、該プロモーター(類)に適当な転写因子が結合すると該プロモーター(類)が該DNA配列のRNAまたはdsRNAへの転写を開始できるような配向にクローニングされているところの、使用。

【請求項17】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように2つのプロモーター間に該DNA配列が提供されている請求項16記載の使用。

【請求項18】 プロモーターに転写因子が結合すると、DNAのdsRNAへの転写がもたらされるように該プロモーターに対してセンスおよびアンチセンス配向で該DNA配列が提供されている請求項16または17記載の使用。

【請求項19】 該プロモーターが組織特異的プロモーターである請求項16～18のいずれか1項記載の使用。

【請求項20】 該プロモーターが根特異的プロモーターである請求項19記載の使用。